

社会福祉学科 2年 前期 総合科目

1. 生と死の倫理学
2. 人間関係論
3. 職業選択と自己実現
4. 臨床美術の実践 I

社会福祉学科

科目名: 生と死の倫理学				担当教員 氏名: 境 美代子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	総合科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護職としての経験を活かして、「生と死」について人としての理解を深められるように教授する						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
この授業では、人間の生と死をめぐる多様な倫理問題に関する近年の動向を検討しながら、複雑な現代社会で「善く生きる」(納得のいく人生を歩む)ための心がまえを学習します。とりわけ、他者の「人生という物語」を共感しながら理解する態度・姿勢を身に付けてもらい、福祉・介護関連の仕事に携わる意欲(使命感)を高めてもらいます。						・道徳と倫理 ・地域共生社会 ・幸福度 ・尊厳と自立 ・インフォームドコンセント ・生命倫理と医療倫理 ・
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			人間の尊厳、人生の意味と幸福、社会の成り立ちについて広く知り、理解を深める。			
C 論理的思考力			何が善であり、倫理的に正しいことであるかを、論理的に(根拠に基づいて)考察する。			
D 問題解決力			医療・福祉・介護の現場における倫理的な葛藤を分析し、問題解決の方策を検討する。			
F チームワーク・リーダーシップ			事例検討を通じて多職種連携の重要性を理解し、連携に必要な協調性を涵養する。			
G 倫理観			医療倫理の考え方を理解し、利用者と家族の人権を守るための倫理的配慮ができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	30 %	実技試験: %
その他: 10 %						
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間で課題レポートによる評価を実施する。グループによる演習、発表をし、最終課題レポートにより成績評価とする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントにより各自に返却する						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①[導入1]人としての倫理、倫理観について理解する				【予習】講義概要を熟読しておく。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】20分 【復習】40分	
②[導入2]人間の尊厳と人権の尊重について理解する				【予習】予習用資料を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】50分 【復習】40分	
③[導入3]倫理原則と倫理綱領について理解する				【予習】予習用資料を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】50分 【復習】40分	
④命に関する倫理、倫理観を理解する				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】70分 【復習】20分	
⑤医療・福祉における生命倫理について理解する				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】50分 【復習】40分	
⑥高齢者医療・福祉現場における倫理的問題について理解する(グループワーク)				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】50分 【復習】40分	
⑦高齢者医療・福祉現場における倫理的問題について理解する(発表) 中間評価				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】50分 【復習】40分	
⑧死に関する生命倫理、尊厳死と安楽死について理解する(1)				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】70分 【復習】20分	
⑨死に関する生命倫理、尊厳死と安楽死について理解する(2)				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】50分 【復習】40分	
⑩高齢者医療における倫理的課題(その1)事例による分析				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】70分 【復習】20分	
⑪高齢者医療における倫理的課題(その2)事例による分析				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】50分 【復習】40分	
⑫児童虐待と生命倫理について理解する				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】70分 【復習】20分	
⑬高齢者福祉社会と今後の問題について理解する(1) (グループワーク)				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】50分 【復習】40分	
⑭高齢者福祉社会と今後の問題について理解する(2) (発表)				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。	【予習】70分 【復習】20分	
⑮発達障がい・LGBTと生命倫理;[まとめ]〈生と死の倫理学〉と福祉・介護				【予習】全体を復習する。	【予習】50分	
使用テキスト: 金子・金内ほか(編集)『学生と考える生命倫理[第2版]』(ナカニシヤ出版、2018、ISBN-10:4779512212)				その他参考文献など: 介護福祉士養成講座編集委員会(編集)『人間の理解(最新 介護福祉士養成講座 1)』(中央法規出版、2019)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 生と死をめぐる現代の諸問題を一緒に考えて、倫理的感受性を少しでも高めて、倫理的行動ができる人に成長してほしいと思います。						

社会福祉学科

科目名：人間関係論				担当教員氏名：尾山 敦子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	総合科目	講義	選択	交流分析士2級受験資格
授業科目の学習教育目標の概要： ・人間関係論は、人間性心理学(交流分析)を中心に学習し、講座を通じて「自他を受け入れ認められる人」「人と親密に係ることができる人」を目指す。 ・自己のパーソナリティの認識と改善、他者への気づきと円満な対応、状況と相手に相応しいやりとり選択、効果的なストローク(ふれ合い)交換、自己の感情や行動の傾向に気づいて改善することを目指す。従って、大学等の学生層、とりわけ心理系、看護系、福祉系、コミュニケーション系カリキュラムに対応するプログラムである。・交流分析のスローガンは「人は誰でもOKである。過去と他人は変えられない。変えられるのは未来と私。自分が変われば相手が変わる。」				キーワード ・人間性心理学 ・人間力 ・交流分析(TA) ・エゴグラム ・パーソナリティ理論 ・コミュニケーション法 ・やりとり・傾聴・ストローク	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力	・自己のパーソナリティ認識と成長法				
E 自己管理能力	・人生の構えのゆらぎと改善、・人生脚本の書き換え等				
F チームワーク・リーダーシップ	自他のパーソナリティを認識した係り方・やりとりパターンの改善(傾聴法、アサーションを含む)・ストローク授受の改善				
G 倫理観	・自他受容(人は誰でもOKである。人は誰でも考える力をもっている。)				
H コミュニケーション力	・エゴグラム分析、・やりとりパターンの改善、 ・ストローク授受の改善				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：90 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他：10 %	
特記事項：アクティブラーニングの一環としてグループワーク、発表を行なう。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：随時実施する。 補修・試験日に期末テストを実施する。(テスト・レベルは上述の到達目標による。)					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：テスト並びに提出課題については次回にフィードバックをし、確実な講義内容の修得と、支援活動における実践力養成につなげる。なお希望者には随時個別面談を行う。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容		学習に必要な時間(分)
①人間関係論とは何か 人間関係論の必要性と目的 自己紹介(グループワーク)			オリエンテーション 自画像と他画像		
②自我状態とは何か 自我状態の構造分析(シートP1)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
③「今、ここ」でのパーソナリティ(自我状態の機能分析その1)(シートP2)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
④「今、ここ」でのパーソナリティ(自我状態の機能分析その2) エゴグラム心理分析(シートP3・4)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑤「今、ここ」でのパーソナリティ(自我状態の機能、肯定的側面と否定的側面)(シートP5・6)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑥自我状態の改善による自他への肯定的人間関係の構築(エゴグラム活用ガイド問題記入提出)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑦人間関係論の概要と自我状態のまとめ やりとり分析その1 やりとり分析とは			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑧やりとり分析その2 刺激と反応によるやりとりの三つのパターン・相補交流(シートP7・8・9)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑨やりとり分析その3 刺激と反応によるやりとりの三つのパターン・交差交流・裏面交流(シートP10・11・12)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑩やりとり分析その4 快い交流を図るには(シートP13)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑪ストロークとは何か その重要性と効果・ストロークの種類(シートP14)(エゴグラム活用ガイドフィードバック)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑫ストローク飢餓とは(シートP15・16・17)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑬ストロッキング・プロフィールによる心理分析(シートP18~22)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑭快いストロークの交換を心がけよう(シートP23) ディスカウントとは(シートP24)			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】復習		【予習】20分 【復習】30分
⑮ディスカウントの領域(シートP25) 全体講義内容のまとめと自己改善の行動目標設定			【予習】テキストの該当箇所を読む		【予習】20分
使用テキスト：「交流分析士2級テキスト」「交流分析士2級TAシート」(NPO法人日本交流分析協会発行)、エゴグラム活用ガイド ※随時プリントを配布します。			その他の参考文献など： TA TODAY 最新・交流分析入門 I・スチュアート 著 V・ジョインズ 著(実務教育出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：「自分を受け入れ、人をも受け入れることができる人」「自他のパーソナリティを認識し、それにふさわしい対応ができる人」を目指す。人にとって人間性豊かな係わりは、何物にも代え難く有り難い励ましである。人間関係論は、今後の人生を通じて、色々な場面で、いつも役に立つ。人間関係論(交流分析)は心理カウンセラーへの導入路でもある。 「人間関係論」と後期の「コミュニケーション論」の両方を受講し、かつ、6時間の補講を受けた人には、2月頃実施のNPO法人日本交流分析協会「2級交流分析士」(登録商標)の受験資格が与えられる。					

社会福祉学科

科目名： 職業選択と自己実現				担当教員 氏名： 島田 勝彰		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	総合科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			ワーク&対話を主とした授業を実施します。			
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
社会のニーズを把握し、自分の実現したいキャリアについて主体的に考えることを通して、自分自身の将来(就職)についてポジティブかつ明確な方向性を見出せる。また、自身の今後のビジョンについて、キャリアを絡めプレゼンテーションすることができる。					キャリア・オーナーシップ 社会人基礎力(基礎教養) 自分らしい職業選択	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
C 論理的思考力	自身のキャリアについて、個人的な背景や社会的な背景から考察できるようになる。					
F チームワーク・リーダーシップ	グループワーク実践を通じて、他者との対話ができるようになる。					
G 倫理観	社会人としてどのように職業選択をすることが正しいかを理解する。					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 0 %	レポート： 40 %	発表： 36 %	実技試験： 0 %	その他： 24 %		
特記事項：その他は原則出席回数となります。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：期末プレゼンテーション、中間レポートを実施。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① イントロダクション(講師紹介・講義概要等)				講義	90分	
② キャリアオーナーシップについて考える				講義・グループワーク	90分	
③ 社会人基礎力について考える				講義・グループワーク	90分	
④ 私が大切にしている価値観について考える				グループワーク・レポート	90分	
⑤ キャリア形成支援(自己分析)				講義・グループワーク	90分	
⑤ キャリア形成支援(業界分析)				講義・グループワーク	90分	
⑦ キャリアビジョン・将来設計				講義・グループワーク	90分	
⑧ プレゼンテーション(私の職業選択と自己実現)				プレゼンテーション	90分	
使用テキスト：講師側で準備				その他参考文献など：		
4週目終了後に、中間課題(レポート)があります。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 臨床美術の実践 I			担当教員 氏名: 岡野 宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	総合科目	演習	選択	臨床美術士4級	
実務経験を用いてどのよ 臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として福祉施設での臨床美術の実践経験を生かし、造形素材の理解やうな授業を行っているか: アートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		2. 3. . 5. 6. 7. 8		
A 知識・理解力	右脳の活性化と認知症について理解することができる。					
B 専門的技術	状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。					
D 問題解決力	「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	リーダー・サプリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。					
H コミュニケーション力	造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: 30 %	その他: 10 %		
特記事項:特記事項: ・臨床美術士4級養成講座は2024年4月に講座内容の改訂を予定しています。それに伴い、臨床美術の実践 I のシラバス内容が一部変更される可能性があります。 ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物: 脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2Bか4B						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習 <u>フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
1	授業ガイダンス	4月28日	出題: 自己紹介	60分		
2	臨床美術基幹II「臨床美術研究成果」	5月19日	出題: レポート、フリー実習計画書	300分 (後期提出)		
3	臨床美術アートプログラム制作「思い出の空」	5月19日	出題: 「自然色からの色彩演習」	120分 (後期提出)		
4	臨床美術アートプログラム制作「土偶」	5月26日	準備物: 4~5cmの石1個			
5	臨床美術アートプログラム制作「アナログキューブ」	6月2日	出題: 「アートプログラムの読み込み」	60分		
6	臨床美術アートプログラム制作「プロクローを描く」①	6月2日				
7	臨床美術アートプログラム制作「プロクローを描く」②	6月2日	出題: 「五感のアナログ画のアートプログラムの予習・試作・準備」	180分		
8	臨床美術教材研究 「素材と表現について I」	6月30日				
9	臨床美術教材研究 「素材と表現について II」	6月30日	出題: 「さまざまな技法」 「さまざまな紙の描き心地」	240分 (後期提出)		
10	アートプログラム実践演習 「五感のアナログ画ロールプレイング」①	7月7日				
11	アートプログラム実践演習 「五感のアナログ画ロールプレイング」②	7月7日				
12	臨床美術学演習「フォルメン」 「ジェスチャー画」①彫刻を見て描く ②人を見て描く	7月14日				
13	臨床美術コミュニケーションII 「現場セッションについて」「子どもの現場」	7月28日				
使用テキスト: 使用テキスト: 『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究所『臨床美術 認知症治療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所			その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「臨床美術」の単位を取得し、臨床美術士4級取得について担当教員と相談の上、受講することができます。授業ガイダンスで授業の内容と日程について説明します。受講者は欠席しないようにしてください。本科目は2コマ続けて行う授業になります。また開講日も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみを記載してあります。)						